

研究テーマ	小中一貫教育を見通した図画工作科の指導の在り方 —小学6年「墨のうた」（水墨画）の実践を通して—
-------	---

土浦市立下高津小学校 教諭 埜口 恭子

I 研究テーマについて

本校を含む土浦市四中学区では、中1ギャップの解消や学力向上、人間性・社会性の育成、生徒指導の充実をねらいとして、小学校と中学校が連携して学習指導や生活指導を行っている。9年間を見通した指導方針のもとで、子供たちを育てる小中一貫・連携教育の教科の面では、体育や理科、数学、外国語では、既に中学校教員の乗り入れ授業も行い、成果を上げている。図画工作科と美術科においても系統表を作成し、児童生徒の体験や学びが滑らかに繋がるよう、カリキュラムマネジメントを進めている。

そのような中、第5・6学年（下）で扱う「墨のうた」は、形や色、材質や触感覚などにかかわる題材としては、第1学年からの小学校図画工作科での系統性はあるが、墨の濃淡だけの色彩で描く水墨画としての描き方は初めてなので、中学校へのつながりや発展を期待しつつ、本題材を通して研究テーマを設定した。

II 研究の実態

1 題材名 墨のうた

2 題材の目標

- 水墨画に関心をもち、積極的に鑑賞したり表現活動を楽しんだりする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 表したいことを思いつき、構図や墨色を考えて表すことができる。(発想や構想の能力)
- 用具を効果的に扱い、自分の思いを大切にしながら水墨画で表現できる。(創造的な技能)
- 参考作品や友達の作品のよさや美しさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の事態

本校高学年は、国語科、算数科、理科、社会科、音楽科、保健体育科、図画工作科、家庭科の8教科で担任制の授業を行っている。6年生児童は昨年度に引き続き、教科担任制の2年目で、図画工作科においては昨年度から継続して同一教師が担当している。

実態調査から、6学年全体の児童の図画工作科への興味関心は高く、これまでの活動でもほとんどの児童は大変意欲的に表現活動に取り組んでいることが分かる。絵画的な表現より工作的な表現を好む児童が多く、初めて取り組むことに抵抗を感じる児童もいることも分かる。

本題材で扱う水墨画は、6学年社会科の1学期内容である「今に伝わる室町文化」の学習で触れてきている。導入では社会科の既習学習を想起させることで、スムーズに導入を図りたい。しかし、実際に水墨画で描く活動は初めてなので、筆の持ち方や腕構えなどの基礎的なことを、電子黒板や実物投影機などを活用して分かり易く指導し、抵抗なく活動に親しむことができるようにしたい。また、絵を大きく描くことが苦手な児童も見られるので、画仙紙は、はがきサイズから八つ切りサイズまで2～3種類を用意し、自分に合ったものを選んで描くことができるようにしたい。

・アンケート結果（第6学年 男子56名 女子53名 計109名 平成28年1月調べ）

質 問	回 答		
	は い	どちらでもない	いいえ
図工の時間は楽しみですか。	107人 (内訳) ・工作……………39人 ・絵(水彩画)……23人 ・版画……………21人 ・造形遊び………19人 ・立体(粘土)………4人 ・鑑賞……………1人	2人	0人

初めて行うことに楽しく取り組みますか。	52人	18人	39人 〈内訳〉 ・できるか不安だから・・・28人 ・慣れていないから・・・11人
---------------------	-----	-----	--

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「A 表現」「(2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする」に対応している。

「B 鑑賞」では、(3) 親しみのある作品などからよさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にできるようにする」に対応し、「[共通事項]」では、「イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと」に対応している。

本題材は、中学校美術の「伝統の美に学ぶー日本の美術、日本の造形ー」や「伝統と改革・日本画ー日本の風土に根ざした絵画ー」、「モノトーンの美しさー水墨画の世界ー」などの題材につながっていくので、系統性のある指導を意識していく。

(3) 指導観

本題材の描画材として扱う墨は、小学校3年生から習字の毛筆で親しんできているが、字を書くことのみで用いていると思っている児童がほとんどである。また、墨だけのモノトーンで表現する絵を描くことも初めてである。墨での表現は、これまで慣れ親しんできたカラフルな多色表現ではなく単色になるが、筆に含ませる水分量を調節したり、筆遣いを工夫したりすることで、かすれさせたり、にじませたり、ぼかしたりすることができる。試しつつ、濃淡だけでの表現でも様々な表情を演出することができることに気付かせ、そのような特徴を表現に生かすことができるようにさせたい。また、中学生の水墨画作品なども鑑賞することができるようにし、今後学習することに見通しをもって活動できるようにしたい。

4 題材の評価規準

評価規準	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
良好 A	水墨画に関心を持ち、積極的に鑑賞したり表現活動を楽しんだりする。	表したいことを思いつき、構図や墨色を考えて表すことができる。	用具を効果的に扱い、自分の思いを大切にしながら水墨画で表現できる。	参考作品や友達の作品のよさや美しさを感じ取ることができる。
おおむね良好 B	提示した参考作品を鑑賞したり、水墨画の表現活動を楽しんだりしている。	モチーフを自分で決めて、構図を整えて表そうとしている。	自分の思いを大切にしながら、水墨画で表現できる。	提示した参考作品や友達の作品を見て、感じたことをカードや発表で表すことができる。
要支援 C	水墨画に興味関心を示さず、表現に抵抗を示している。	何を描こうか決めかねており、構図のバランスがとれない。	水墨画を描こうとしない。何を描いたのか見とれない。	提示した参考作品や友達の作品に興味を示さず、感想を表すことができない。
支援の手立て	寄り添って作品の見どころを伝えたり、手本を示しながら描くことに挑戦させる。	気に入りそうなモチーフを提案し、選択させ、個に応じた描き方で描くことができるようにする。	教師が下描きをし、なぞったり、途中を描いたりしながら何を表現したのか分かるようにする。	寄り添って提示した作品や友達の作品をよく見るように促し、会話によって感想を引き出し書いたり発表

				したりすることが できるようにする。
--	--	--	--	-----------------------

5 指導と評価の計画（7時間扱い）

次	時	主な学習活動	評価基準【評価方法】
1	1	水墨画について知る。 ・「雪舟」は、どんな絵を描いた人だろう。 ・水墨画はどれ？クイズ	・水墨画に関心をもち、進んで鑑賞したり、VTRを見たり、クイズに答えたりしている。 関 【態度観察】
2	1 2 3	水墨画の描き方を知る。 ・筆の持ち方を知る。 単鉤法，双鉤法 ・腕構えを知る。 懸腕法，提腕法，枕腕法 ・いろいろな墨色を作って描く。 調墨，側筆	・用具を効果的に扱い，表現できる。 技 【観察，作品】 ・水墨画の描き方に興味をもち，進んで試している。 関 【態度観察】 ・調墨をし，薄墨を作ったり，側筆で描いたりすることができる。 技 【作品】
	4 5 本時	水墨画を描こう。 ・描きたいものを決めて，水墨画で表現する。	・表したいことを思いつき，構図や墨色を考えて表すことができる。 技 想 【作品】
3	1	・作品を紹介し合い，鑑賞したことを伝え合う。	・友達の作品のよさや美しさを感じ取ることができる。 鑑 【発表，鑑賞カード】

6 指導の実際

(1) 本時の目標

- 描きたいものを決めて，水墨画で表現することができる。

(2) 小中連携を生かした取り組み

- ・中学生が小学生だった時に描いた作品や，中学生の水墨画作品の鑑賞（電子黒板）
- ・ビデオレターでの中学生から小学生に向けた“水墨画を描くときのコツ”メッセージ

(3) 準備・資料

- ・中学生の作品（パソコン・CD画像）
- ・ビデオレター
- ・ワイヤレススピーカー
- ・電子黒板
- ・実物投影機
- ・画仙紙（3種類×20枚ずつ）
- ・水墨画のモチーフ（野菜，果物，花，干物の魚，蚊取り線香など ※実物や写真など児童が用意したもの他に教師も描きやすそうなものを数種類用意しておく。）
- ・作品乾燥棚

(4) 本時の展開

学習課題・活動	学習活動への支援・評価	資料・準備
1 ビデオレターを見たり，中学生の水墨画の作品を鑑賞したりして，前時までの活動を振り返る。	・中学生の水墨画の作品や“水墨画を描くときのコツ”メッセージを電子黒板で紹介し，前時に取り組んだ水墨画の描き方を思い出し，意欲を高めて活動に入ることができるようにする。	・ビデオレター ・電子黒板 ・ワイヤレススピーカー ・中学生の水墨画の作品
2 本時のめあてや学習の進め方を確認する。	・本時は，描きたいものや画仙紙の大きさを自分で決めて，水墨画で表す活動を行うことを伝え，見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。	・画仙紙 ・水墨画のモチーフ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 描きたいものを決めて水墨画で描こう。 </div>	・児童が試し描きをしながら，どれを描くかそれぞれの好みに応じて選ぶことができるようにする。	・練習用画仙紙
3 描きたいものを決める。		

<p>4 水墨画で描く。</p> <p>5 本時の活動を振り返り、次時の活動について知る。</p> <p>6 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・決めかねている児童には寄り添って相談に乗ったり、簡単に描くことができるものを紹介したりする。 ◎表したいことを思いつき、構図や墨色を考えて表すことができる。【想】【作品】 ・描き出すことができずにいる児童には、教師が寄り添い、幾つかの構図の例を練習用紙に描いて見せ、活動に入れるよう支援する。 ・作業途中の鑑賞を適時取り入れ、静かに互いの作品や作品づくりの様子を見合うことで自らの作品づくりに生かすことができるようにする。 ・作業が速い児童には、完成した作品を乾燥棚に置き、もう一枚描いてみるよう助言する。その際、より難度の高いモチーフを勧める。 ◎用具を効果的に扱い、自分の思いを大切にしながら水墨画で表現できる。【技】【作品】 ・学習グループで作品を紹介し、静かに鑑賞する。 ・次時は、作品発表会及び鑑賞会を行うことを予告し、自分の作品をどのように紹介するか、考えておくように伝える。 ・墨の処理の仕方を再度指導し、ペットボトルを使って、残った墨を上手に後片付けできるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習用紙 ・描き終わった作品を置く乾燥棚
---	--	--

III 研究の成果と課題

【授業の様子】

描きたい絵に合わせて、濃さの異なる墨色を作っている児童↓



筆の持ち方を知り、試しながらパンダの絵を描いている児童↓



調墨に慣れ，竹林を上手に描く児童↑

細かい花を描くため，利き手と反対の手を支えにして筆の穂先を使って描く児童↑



←黒板に掲示した児童が描いた様々な竹林

←電子黒板に映し出して紹介している中学生の水墨画作品